

ホップ・ステップ・ジャンプ!



運動会に向けての取組がスタートしました!!

各クラスや委員会で、運動会に向けての準備が始まりました。3年生の皆さんにとっては、これが中学校生活最後の運動会になります。先日、団役員の顔合わせの際に確認をしましたが、これからは団長・副団長・エールリーダーが中心となって、全校生徒を動かしていかなければなりません。それは決して容易なことではありません。3年生全員が1・2年生の手本となれるように、気持ちを引き締めて、がんばっていきましょう。

各クラスの団長候補たち

- | | | |
|----|----|----|
| 1組 | 新田 | 煌 |
| 2組 | 白井 | 徠 |
| 3組 | 杉森 | 心相 |
| 4組 | 朝川 | 莉子 |
| 5組 | 柿島 | 暖 |
| 6組 | 下川 | 桃花 |

～団割抽選の結果～

- | | |
|----|--------|
| 赤団 | 3年4・6組 |
| 青団 | 3年1・5組 |
| 黄団 | 3年2・3組 |

～3年生 とある日のテイレイライフの記述より～

もちろん運動会本番は死ぬ気でがんばるけど、そのあともずっとがんばりつづけることが団長・エールリーダーの仕事なんやと思った。

がんばる → 本番 → すうと がんばる = よく なる = 大成功

行事は、1人1人の成長と野々市中学校のレベルアップのためにあります。たとえ運動会当日に2冠をとっても、その後の学校生活が乱れていれば、運動会は失敗です。逆に、運動会当日に勝てなかった団の学級が、その後の学校生活でレベルアップしていたら運動会は大大大成功です。本当の2冠は3月にわかるのです。

意見文のクラス内交流を行いました!!

先週の総合の時間に、休業期間に皆さんが書いた意見文をクラス内で交流しました。1・2年生のときから意見文の取組をしてきましたが、「さすが3年目」と言わんばかりに、内容、書き方ともに素晴らしいものがたくさんありました。



意見文の交流会を終えて (生徒の皆さんの感想より)

全体的にコロナ関連の話題が多く、コロナから起こるさまざまな影響から考えさせられることがたくさんありました。また、それ以外にも、いじめや世の中の深刻な状況を少しでもよくしていけるようにしなければならないと思うことができました。

全員がそれぞれの想いを持っていて、聞いている側が考えさせられるような内容の深い意見文がたくさんあって聞いていて楽しかった。

色々な人の意見が聞けたし、これから生活していく中で役立てられそうなことが多く、とてもいい交流会になりました。



☆3年3組 寺見奏保さんの意見文を紹介します。考えさせられる内容です。ぜひ読んでみてください。

今だから。

「いつやるか、今でしょ」 この言葉が今から数年ほど前に流行った。私はこの言葉を今の日本の政治に伝えたい。

「いつ九月入学を導入するのか、今でしょ」

新型コロナウイルス、他人事のように感じていたが、今では私たちの生活に大きな影響を与えている。そのうちの一つが学校の臨時休業だ。今年、受験生と呼ばれる私たちは、進路について考え、行動していかなければならない時期に入っている。しかし、現実には受験生という実感があまり湧かず、机に積まれたワーク、プリントを見ては頭を抱えているのが正直なところだ。これからの学校生活、最後の行事、そして受験、不安で心配でいっぱいなのが現状だ。そんな日々が続く中、「九月入学案」という文字が度々ニュースで見られるようになった。「九月入学案」とは、一九八六年から検討されてきたと言われる、年度のはじめを四月から九月に変えるものである。つまり、四月に入学式だったものが九月に変更されるということだ。とても大胆ではあるが、今の日本に導入するべきだと考える。

第一に、九月入学というのは世界的にみると「普通」なことであり、四月入学の国はインドと日本のみと言われている。よって、九月入学することで留学がしやすく、また外国からの留学生を受け入れやすくなるというメリットがある。教育のグローバル化が進むのではないかと考える。第二に、受験シーズンになると受験生は特にインフルエンザなどの風邪、そして北陸の地域だからこそ雪による心配も出てくる。そんな受験シーズンが九月入学によって五月から六月頃になると考えられる。その時期はとても過ごしやすく、インフルエンザなどの風邪を心配する必要もない。たったそれだけのように思うかもしれないが、受験生にとっては、大きな安心感につながると思う。第三に、もしこれからコロナウイルスの第二波がきたとしても時間に余裕があり、オンライン授業の整備も落ち着いてできるということだ。コロナに有効なワクチンが開発されない限り、またいつコロナが流行り、休校になるか分からない。そして私たちが楽しみにしている修学旅行、最後の運動会、合唱コンクール。大きな行事も今の段階では昨年と同じように実施するのは困難だと考える。中学校最後の年にして何もできずに終わるのは非常に残念であり、この悔しさ、怒りをどこにぶつけたらいいのかわからない。ならば、九月から再スタートし、コロナ対策をしながらも中学三年生を楽しむのがよいと思う。しかし、メリットだけではない。たくさんのデメリットも存在する。受験の時期を変更するということは、国家試験や入社時期も変えなければならないということだ。九月入学は学生だけの問題ではない。社会全体の問題なのだ。また、年度を九月からにしなければならぬため、法律ごと変える必要も出てくる。これは簡単なことではなく、国民の理解が得られるかが大切となってくる。九月までの五ヶ月間、学生は何をすればいいのか、そしてコロナで世の中が混乱している以上、九月入学ではなく、収束、予防に力を入れるべきではないかという意見も出ている。

私もはじめは九月入学に対して今することではないと考えていた。しかし、約三十年も前から検討されていたのにも関わらず、いまだ実現できていない。それは今も昔も今すべきことではないと後回しにされてきたからではないだろうか。確かに何かを変えるというのは勇気がいる。そして簡単なことではない。しかし、今やらなければいつやるのか、コロナを通じて世界が変わろうとしている今こそチャンスではないかと考える。「今ではない」ではなく、「今だからこそ」と見方を変えることが重要なのではないだろうか。

コロナを通じて、私は、自分が今までどれだけ政治について興味を持ってこなかったかということに気づかされた。「これからの未来は若者が造る」というように、もっと若い世代が政治に関心を持ち、一人一人が意見を発信していくことが大切だと思う。これから何が起こるか分からない。あなたの意見で何か変わるかもしれない。行動に移すことが大切だ。